

### 自律成長するAIを活用し、 移住希望者の属性から適切な移住候補地を マッチングするシステムを実現

移住の地として注目されつつある福岡県糸島市は、富士通研究所、九州大学と実証実験を実施。自律成長するAIを活用して移住希望者と適切な移住候補地をマッチングするAIマッチングシステムを実現した。自治体における地域の課題解決へのAI活用の事例を紹介する。



糸島市 地域振興課 定住・学研都市係  
左) 係長 大鶴 泰輔 氏 右) 渡辺 浩一 氏

自社の課題解決にAIを活用できるのか、頭を悩ませる企業・団体が多い中、福岡県糸島市は、富士通研究所、市内にある九州大学と共同で、AI活用の実証実験を行っている(平成30年度からは富士通研究所のみ)。豊かな自然、住環境の充実、きめ細やかな子育て支援などの理由から移住の地として注目度が向上している同市だが、移住相談が増えるにつれ、相談の長時間化、移住希望者と移住候補地のミスマッチといった課題が浮上してきた。これらの課題解決を目指すべく、AI活用の実証実験が始まった。

移住は人生の一大イベントだ。当然ながら移住希望者が提示する条件は多く、その内容も様々である。当初は、AIを使って、属人性が高い条件に対して候補地を適切にマッチングできるのかとの懸念があった。そこで、富士通研究所と糸島市は、移住相談を受けてから移住候補地が決まるまでの業務をシミュレーションし、その流れを明確に割り出した。そのうえで業務内容を細かく整理しながら、どこをAIでカバーできるかを検討していったのである。AI活用といっても、すべてをAIに任せるのではない。富士通が目指すのは人間とAIが協調する世界であり、AI活用の目的は人間を補完することだ。こうした開発中のAIマッチングシステムは、現在糸島市のサイトで公開され、実証実験を行っている。

実験中のAIマッチングシステムでは、移住希望者が「子どもあり」「車あり」といった属性情報を入力すると、そこから「病院の近さ」「交通の利便性」といった好み(要望)が導出され、それをベースに移住

候補地(行政区)が提案される。こうしたアクションは、希望者側にとっては移住するにあたり何が大切かを整理することになり、提案する市にとっては、より正確かつスムーズに希望に近い条件の提案につながる。このシステムでポイントは2点ある。移住希望者の属性とその好みの関係性をモデル化した九州大学による数理技術で、属性が決まればそこから好みが導き出される。もうひとつは、富士通研究所が開発した、短時間で人間の好みを探し出すAI技術だ。膨大なデータに対し、属性から導出された好みに対して納得したユーザーがひとりでも増えると、属性と好みの関係性を逐次修正する。ユーザーが増えるたびに自律的に成長し、賢くなっていくのだ。また、市の移住担当者のノウハウを徐々にAIに落とし込むことで、ユーザーのAIへの不信感を減らし、AIの社会受容性を向上させるという配慮もなされている。

AI活用ではデータが多ければ多いほどよい。今回の実験では、Webアンケートを実施するほか、被験者100人から移住

相談を受けながらスタンドアロン版のシステムを使い、AI学習用のデータを収集した。さらに、移住候補地のマッチング用に、163地域(行政区・自治会)において地域の写真、スーパーやコンビニなどの施設情報、駅などの交通情報といった細やかな情報収集を行った。糸島市にとって、データ収集、その後の整理、チェックは大変な作業であったが、その地道な作業がAIマッチングシステムの実現に大きく貢献したことはいうまでもない。

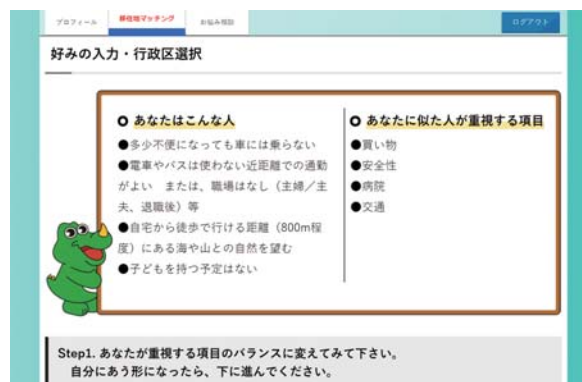
移住希望者の満足度の向上、移住者の増加などの効果が明らかになるのは実証実験の終了後だが、糸島市は他の課題についてもAI活用に積極的な姿勢を見せている。常に新しいことに挑戦し続けることが元気の都市というイメージとなり、活性化につながると考えている。

#### 自治体概要

福岡県糸島市

<http://www.city.itoshima.lg.jp/>

所在地:福岡県糸島市前原西1丁目1-1



実際の移住地マッチングシステムの画面



実証実験中!